

II 調査結果

21名のうち1名はかなり以前の地域移行実施の事例であり、詳細な情報収集が困難であったため他の20事例の分析を行った。

1, 調査対象者のプロフィール

区分Aは、入所期間が中央値である17年よりも長く、地域移行に向けた取り組みを円滑に進めることができた対象群である。

区分Bは、入所期間が中央値である17年よりも短く、地域移行に向けた取り組みを円滑に進めることができた対象群である。

区分Cは、入所期間が中央値である17年よりも長く、地域移行の実現に向けて様々な取り組みを行い環境との調整を図った対象群である。

区分Dは、入所期間が中央値である17年よりも短く、地域移行の実現に向けて様々な取り組みを行い環境との調整を図った対象群である。

表1 調査対象者プロフィール

区分	調査番号	性別	年齢	入所期間	現在（死亡時）のグループホーム	支援区分
A	A-1	女	61歳	24年7カ月	グループホームA	6
	A-2	女	60歳	25年2カ月	グループホームA	4
	A-3	女	享年58歳	17年10カ月	グループホームB	6
	A-4	男	56歳	26年	グループホームC	6
	A-5	男	56歳	26年	グループホームC	5
	A-6	男	53歳	26年10カ月	グループホームC	6
	A-7	女	享年59歳	26年10カ月	グループホームD	5
B	B-1	男	45歳	10年12カ月	グループホームE	4
	B-2	女	享年59歳	10年12カ月	グループホームE	5
	B-3	男	享年58歳	15年6カ月	グループホームE	3
	B-4	女	享年46歳	11年12カ月	グループホームE	6
	B-5	男	40歳	12年3カ月	グループホームH	4
	B-6	女	享年63歳	1年3カ月	グループホームI	3
C	C-1	女	66歳	18年11カ月	グループホームF	4
	C-2	女	53歳	32年2カ月	グループホームA	5
	C-3	男	56歳	17年9カ月	グループホームG	3
	C-4	男	享年36歳	19年7カ月	グループホームF	2
D	D-1	女	56歳	15年12カ月	グループホームH	5
	D-2	男	37歳	3年10カ月	グループホームH	5
	D-3	男	43歳	11年	グループホームH	6

2, ゾーニング表

調査対象者 A から D でゾーニングをしてみた結果は、以下の図のとおりである。

縦軸は入所年数を表記、当法人の中央値の17年を交わる点とし5年毎を1メモリとする。
横軸は、地域移行における課題とし、1点を利用者の困難、2点を家族による困難、3点を環境による困難と設定する。

区分 A から D の4つの区分をそれぞれゾーニングする形で設定し、ゾーニングをした。

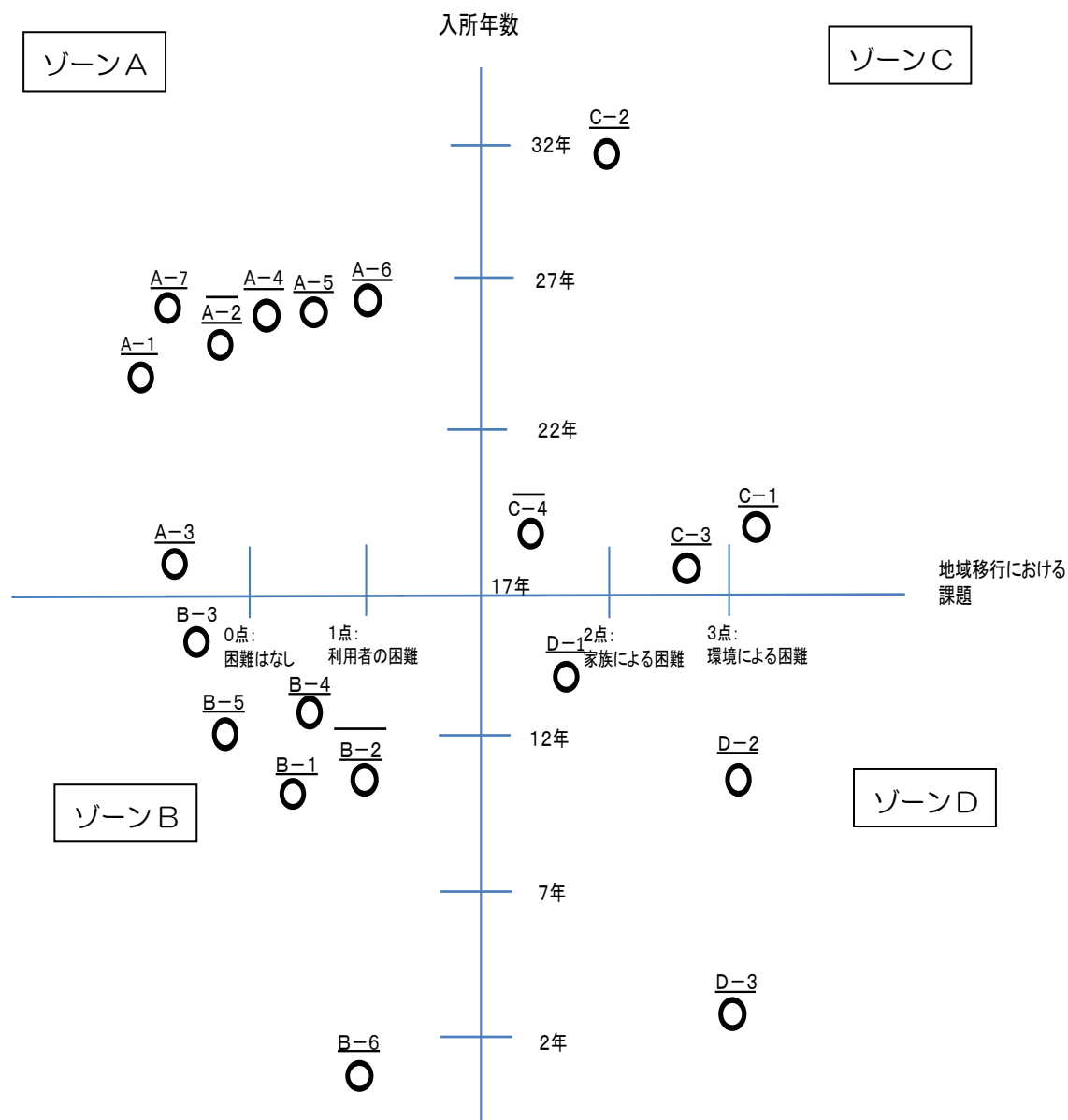


図1 ゾーニング表

※支援区分が4以上の対象者には下線を、精神障がいがある対象者には上線を、事例番号部分にて表記する。

3, 調査対象者、調査日程・場所

2021年9月3日から2022年1月14日の期間において、調査対象者の希望により日時、場所を決定する。調査時間はそれぞれ約2時間程度とする。

表2 調査対象者毎の調査日程及び場所

Aゾーン		
対象者	日時	場所
A-1	2021年11月22日	グループホーム A
A-2	2021年10月29日	グループホーム A
A-3	2022年1月12日	法人事務局
A-4	2021年11月15日	グループホーム C
A-5	2021年11月15日	グループホーム C
A-6	2021年10月1日	グループホーム C
A-7	2022年1月12日	法人事務局
Bゾーン		
対象者	日時	場所
B-1	2021年9月3日	法人事務局
B-2	2021年12月7日	法人事務局
B-3	2022年12月7日	法人事務局
B-4	2022年1月14日	法人事務局
B-5	2021年12月6日	グループホーム D
B-6	2022年1月14日	法人事務局
Cゾーン		
対象者	日時	場所
C-1	2021年12月13日	グループホーム F
C-2	2021年12月13日	グループホーム A
C-3	2021年11月22日	グループホーム A
C-4	2021年12月22日	法人事務局
Dゾーン		
対象者	日時	場所
D-1	2021年11月29日	グループホーム H
D-2	2021年11月29日	グループホーム H
D-3	2021年12月6日	グループホーム H

4, 調査概要

(1) ゾーン A

A ゾーンの 7 名に関し、調査を実施した結果の概要について説明する。なお、この区分の対象者は、当法人の中央値 17 年よりも長く、地域移行に至るまでの取り組みが比較的スムーズだった事例の群である。

1) 地域移行の取り組み概要

① 法人の取り組みについての概要

- ・入所施設のソーシャルワーカーが中心となりながら、地域移行推進に向けてチーフとなる職員のもと、それぞれの担当を決め施設内の職員体制を構築していった。
- ・利用者の特性等を理解している入所施設の担当職員が自活訓練を実施しながら、利用者の表情や行動を観察した。施設での生活に比べて、安定して生活していることから地域移行の取り組みを進めることが妥当であるとし、法人の地域移行課が中心となって地域移行を進めることとした。
- ・夜間就寝ができ、自室にて 1 人で過ごすことも可能であることから、当該利用者の地域移行を進めていった。
- ・それまでの施設での生活状況から利用者の情報を収集し、カンファレンスや会議等でそれらの情報を共有した。その結果、複数の利用者の地域移行を進めていくために、利用者自らの混乱を最小限に抑えることが必要であると考えられた。それらの利用者は配慮すべき点が共通していることも多かったことから、該当する利用者等に合ったグループホームの建設を計画することとした。

② 利用者の意思に基づいた支援体制の構築についての概要

- ・個票から、これまでの利用者の生活状況や ADL に関すること等の必要な情報を収集し、個別支援計画へ地域移行の取り組みを進めるために必要な支援体制について明記した。
- ・個別支援計画等に自活訓練やグループホームでの暮らしの体験を明記した。そのうえで、実際に訓練や体験を行いながら、利用者の生活の様子や姿に着目しながら利用者の意思を確認することとした。入所施設での生活に比べて表情は柔らかく、規則正しい生活を送ることができていることから、地域移行の取り組みを進めることとした。グループホームでの生活を始めるために家具等の必要な物品は利用者と一緒に購入することにより、入所施設ではない新たな場所での生活が始まることを利用者が理解できるよう取り組んだ。
- ・利用者の何気ない変化や様子を観察しながら利用者の意思を的確に把握し、個別化した形で支援体制を整えることができるよう、利用者の特性等を理解した職員が地域移行推進に向けたチーフとなった。

2) リッカートスケールによる評価

シングルシステムデザイン法を用いて分析し、地域移行前後のリッカートスケールによる評価を実施した結果に基づく効果ポイントは以下の表のとおりである。

表3 ゾーンAのリッカートスケールによる評価結果表

		具体的な内容	結果							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	
人間関係群	1	人間関係 人間関係の広がり	①友人、仲間関係の広がり ②支え手、支援者の広がり ③地域住民との交流 ・地域の役員 ・近隣住民 ・近隣商店の店員 ④その他	0	1	1	1	1	0.5	1
	2	家族関係	①面会の頻度 ②帰省の頻度、期間	0	0	0	0.5	0.5	0.5	0
	3	情緒(心情・感情)の安定	①パニック状態や興奮状態について	0	2	0	2	1	2	2
	4	コミュニケーションの緊張状態	①ご本人からの意思発信状況について ②ご本人の意思の発信方法について ③職員とご本人のコミュニケーションの状況について	0	1	1	1	1	1	0
生活行動群	5	選択・嗜好	①食事…自分の好みのメニュー、飲物 ②入浴…頻度、時間を自分の都合で決められるか ③起床時間、就寝時間…自分の都合で決められるか ④日用品(シャンプー、歯ブラシ等) ⑤衣類購入 ⑥その日の服装 ⑦テレビ番組	0	1	1	1	1	1	0.5
	6	住まい	①部屋の間取り ②多床室か、個室か ③装飾品	2	2.5	2.5	2	2	2	2
	7	医療・健康	①健康状況 ②医療機関の活用 ③住まいの場での健康管理	0	0	0	0.5	0.5	0.5	0
	8	地域資源の活用	①利用する事業所 ②銀行、郵便局、役所等	1	1	1	1	1	1	1
	9	生活リズム・生活の安定	①生活リズムについて ②生活面での課題について	0	1	0	1.5	1	1	0
社会関係群	10	余暇	①住まいの場での余暇時間の過ごし方 ②休日時間の過ごし方 ③外出、旅行	0	1	0.5	1	1	1	0
	11	社会との関わり	①市民活動 ・地域行事への参加 ・選挙 ②財産管理 ③事業所等を利用する場合の説明 ④利用料金等の支払に対する説明	0	0.5	0	0.5	0.5	0.5	0.5
	12	その他								

①人間関係群について

・「人間関係、人間関係の広がり」についてはA-2、A-3、A-4、A-5、A-7がプラス1ポイント、A-6はプラス0.5ポイント、A-1については地域移行前後で評価点差が0ポイントとなったA-2、A-3、A-4、A-5、A-6、A-7については近所のコンビニや床屋への外出等、地域の住民や店員との交流が増えたことからプラスの評価となった。A-1については入所時から他利用者や地域住民と交流を広げている、あるいは利用者自らが他者との関わりをあまり得意としていないことから地域移行前後で大きな変化がないため、評価点差が0ポイントとなった。

・「家族関係」については、A-4、A-5、A-6がプラス0.5ポイント、A-1、A-2、A-3、A-7は地域移行前後で評価点差が0ポイントとなっている。A-4、A-5、A-6の評価ポイントが上昇した理由としては、地域移行後もご家族との関係は良好で面会や帰省も定期的に行っていることから上記のとおり評価となった。A-1、A-2、A-3、A-7については、ご家族が既に亡くなっている等といった理由から変化が見られないため評価点差が0ポイントという結果となった。

・「情緒の安定」については、A-2、A-4、A-6、A-7がプラス2ポイント、A-5がプラス1ポイントとなった。地域移行後は入所時に比べて、パニック状態や興奮状態が見られることがかなり減っており、安定した生活を送っていることからプラスの評価となった。A-1、A-3は、地域移行前後で点差が0ポイントとなっているが、これは入所時から情緒的に不安定な様子が少なく、入所時と比べて地域移行後の様子についても大きな差がないため上記のような結果となった。

・「コミュニケーションの緊張状態」については、A-2、A-3、A-4、A-5、A-6がプラス1ポイントとなった。地域移行後は利用者自ら他者へ意思を発信する場面が増えていることから上記の評価結果となった。A-1、A-7については、入所時から利用者自らの意思を発信しており職員との関わりもとても多く、地域移行後もその様子に大きな変化は見られていないため評価結果が0ポイントとなった。

②生活行動群について

・「選択・嗜好」については、A-2、A-3、A-4、A-5、A-6がプラス1ポイント、A-7がプラス0.5ポイントとなった。入所時に比べて地域移行後は、利用者自ら選択される機会や場面が増えていることが評価された。A-1は入所時から利用者自ら選択されていたとのことで、地域移行前後の評価点差が0ポイントとなった。

・「住まい」については、A-1、A-4、A-5、A-6、A-7がプラス2ポイント、A-2、A-3がプラス2.5ポイントで全事例において、住まいの項目がプラスの評価となった。入所時は多床室であったのが地域移行後に個室となり、個人の空間が確立されたことが評価された。

・「医療・健康面」については、A-4、A-5、A-6がプラス0.5ポイントとなり、A-1、A-2、

A-3、A-7については評価点差が0ポイントとなった。A-4、A-5、A-6については、定期通院等はあるものの、施設入所時よりも体調を崩すこともなく大きな病気にもかかっていないことからプラスの評価となった。A-1、A-2、A-3、A-7については、利用者の高齢化に伴い医療機関にかかる機会は増えたものの、グループホームで健康面を管理しているので大きな病気等になることもなく現状維持できていることから評価点差が0ポイントとなった。

- ・「地域資源の活用」については、全事例においてプラス1ポイントとなった。これは地域移行後、グループホームの敷地とは別の場所にある日中事業所へ通うようになった、あるいは移動支援・行動援護のサービスを利用していることからプラスの評価となった。
- ・「生活リズムの安定」については、A-2、A-5、A-6がプラス1ポイント、A-4がプラス1.5ポイントとなっている。これはグループホーム移行後、起床・就寝等のリズムが安定し、生活スタイルが確立されたことから上記の評価結果となった。A-1、A-7については地域移行前後で評価結果が0ポイントとなっており、これは入所時から生活リズムが確立されており地域移行後もそのリズムが維持されていることから評価結果が上記のとおりとなった。

③社会関係群について

- ・「余暇」については、A-2、A-4、A-5、A-6がプラス1ポイント、A-3がプラス0.5ポイントとなった。これは地域移行後に利用者が好きなことを存分に楽しめるようになってい、あるいは移動支援や行動支援の利用を開始し、外出の機会を楽しまれている等ことからプラスの評価になった。A-1、A-7については地域移行前後の結果が0ポイントとなった。これは、入所時から地域移行後も利用者自らが好きなことをして余暇を過ごしているため、評価に変動がないという結果となった。

- ・「社会との関わり」については、A-2、A-4、A-5、A-6、A-7がプラス0.5ポイントとなった。これは入所時よりも地域行事に参加する機会が増えたことからプラス評価となった。A-1、A-3については、入所時から地域行事等について機会があれば参加しており、地域移行後も同様であるため変化がないことから地域移行前後での評価点差が0ポイントとなった。

3) リッカートスケールによる評価集計結果

表4 ゾーンAのリッカートスケールによる平均評価集計結果

		評価結果
ゾーンA	人間関係群	3ポイント上昇
	生活行動群	4.7ポイント上昇
	社会関係群	1ポイント上昇

シングルシステムデザイン法による分析結果を、ポイントによる評価結果で整理した1人当たりの平均は上記のとおりである。

人間関係群については 3 ポイントの上昇となり、中でも「情緒（心情・感情）の安定」が約 0.8 ポイントと最も上昇した。生活行動群については 4.7 ポイントの上昇となり、中でも「住まい」が約 1 ポイントと最も上昇した。社会関係群については 1 ポイントの上昇となり、中でも「余暇」が 0.6 ポイントと最も上昇した。ゾーン A において、群ごとの変動が最も大きい項目は生活行動群であった。

4) 地域移行前後のリッカートスケールによる評価結果

各事例の地域移行前と地域移行後をシングルシステムデザイン法によって分析したポイントによる評価で整理した結果は、以下の表のとおりである。

表 5 ゾーン A 調査対象者毎の地域移行前後のリッカートスケールによる評価結果

		A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
地域 移行前	人間関係群	3	1.7	3.2	3	3	2.2	3
	生活行動群	2.8	2.4	2.8	2.4	2.6	2.4	2.8
	社会関係群	2	2	2.5	2	2	2	2.5
地域 移行後	人間関係群	3	2.7	3.7	4.1	3.8	3.2	3.7
	生活行動群	3.4	3.5	3.7	3.6	3.7	3.5	3.5
	社会関係群	2	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7

また、地域移行前と地域移行後のゾーン A 全体における平均評価ポイントは以下のとおりである。

表 6 ゾーン A 全体における平均評価ポイント

			評価結果
ゾーン A	地域移行前	人間関係群	2.7 ポイント
		生活行動群	2.6 ポイント
		社会関係群	2.1 ポイント
	地域移行後	人間関係群	3.5 ポイント
		生活行動群	3.5 ポイント
		社会関係群	2.6 ポイント

(2) ゾーン B

B ゾーン の 6 名 に関 し、調 査 を 実 施 し た 結 果 の 概 要 に つ い て 説 明 す る。こ の 区 分 の 対 象 者 は、当 法 人 の 中 央 値 17 年 よ り も 短 く、地 域 移 行 に 至 る ま で の 取 り 組 み が 比 較 的 ス ム ー ズ だ っ た 事 例 の 群 で あ る。

1) 地域移行の取り組み概要

① 法人の取り組みについての概要

・利用者自ら、言葉で入所施設以外での暮らしを望んでいるという意思を担当職員等に伝えていた。それらの情報については日々の支援記録やカンファレンスの場をもちいて、担当職員、施設長、法人のソーシャルワーカー等多くの職員が共有していたので、地域移行の取り組みを進めていく対象候補となった。

・法人のソーシャルワーカーが送り手、地域移行先のグループホーム管理者が受け手として、それぞれの場所において地域移行推進のチーフとなり、地域移行推進のために必要な支援体制を構築していった。

・カンファレンスは細かく実施したうえで必要に応じて会議の場を設けることにより、それまでの利用者の生活の様子から利用者自らどのような意思を持っているのかを職員間で情報を共有できるよう取り組んでいた。例えば、「静かな暮らしをしたい」「グループホームに行った〇〇さんは元気かな？」等といった会話があれば、利用者自らに地域移行への意思があると推測し、自活訓練や体験の対象候補者として選定していった。

② 利用者の意思に基づいた支援体制の構築についての概要

・利用者が入所施設以外の場所での生活を望んでいるという意思を、言葉で明確に表出されていたことから、どのようなグループホームでの暮らしを望まれているのかを確認することとした。その際は、日々利用者の支援にあたっている担当職員が確認をすることで、利用者が自らの意思を伝えやすい環境を整えた。意思が確認できたところで法人内のソーシャルワーカーが中心となり、利用者の望まれている生活に近い暮らしが実現できるようなグループホームを検討していくこととした。

・自活訓練を実施することにより、利用者がグループホームでの暮らしをどのように感じたのかを、利用者の表情や態度から確認するようにした。例えば、自活訓練日ではなくともその準備を利用者自ら行い、玄関で職員を待っている姿が見られたことから、利用者が地域移行に対して積極的に取り組んでいることを確認していた。またそれらの意思をより的確に把握するために、利用者と長年関わっていた職員が自活訓練の支援に入った。

・自活訓練の実施について個別支援計画等に明記した。自活訓練での利用者の様子や反応について担当職員や施設長等で情報を共有しながら、地域移行に対する利用者の意思について確認した。

2) リッカートスケールによる評価

シングルシステムデザイン法を用いて分析し、地域移行前後のリッカートスケールによる評価を実施した結果に基づく効果ポイントは以下の表のとおりである。

表7 ゾーンBのリッカートスケールによる評価結果表

		具体的な内容	結果					
			B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6
1	人間関係 人間関係の広がり	①友人、仲間関係の広がり ②支え手、支援者の広がり ③地域住民との交流 ・地域の役員 ・近隣住民 ・近隣商店の店員 ④その他	0.5	1	2	0	2	1
2	家族関係	①面会の頻度 ②帰省の頻度、期間	0	0.5	0	0	1	0
3	情緒(心情・感情)の安定	①パニック状態や興奮状態について	0	1	0	1	2	1
4	コミュニケーションの緊張状態	①ご本人からの意思発信状況について ②ご本人の意思の発信方法について ③職員とご本人のコミュニケーションの状況について	1	0.5	0.5	0	2	0.5
5	選択・嗜好	①食事…自分の好みのメニュー、飲物 ②入浴…頻度、時間を自分の都合で決められるか ③起床時間、就寝時間…自分の都合で決められるか ④日用品(シャンプー、歯ブラシ等) ⑤衣類購入 ⑥その日の服装 ⑦テレビ番組	1	1	1.5	1	1	1
6	住まい	①部屋の間取り ②多床室か、個室か ③装飾品	2.5	2.5	2.5	2	2	2
7	医療・健康	①健康状況 ②医療機関の活用 ③住まいの場での健康管理	0	0	0	0	0.5	0
8	地域資源の活用	①利用する事業所 ②銀行、郵便局、役所等	0	1	0	1	0.5	0.5
9	生活リズム・生活の安定	①生活リズムについて ②生活面での課題について	0	1	1.5	1.5	2	0
10	余暇	①住まいの場での余暇時間の過ごし方 ②休日時間の過ごし方 ③外出、旅行	1	1	1.5	1	1	0.5
11	社会との関わり	①市民活動 ・地域行事への参加 ・選挙 ②財産管理 ③事業所等を利用する場合の説明 ④利用料金等の支払に対する説明	0	0	1	0	1	1
12	その他				終末期ケアの実施			

①人間関係群について

・「人間関係・人間関係の広がり」については、B-1 はプラス 0.5 ポイント、B-2、B-6 はプラス 1 ポイント、B-3、B-5 はプラス 2 ポイント、B-4 は地域移行前後で評価点差が 0 ポイントとなっている。B-1、B-2、B-3、B-5、B-6 については、例えば地域移行後は外出の機会がより増え、グループホーム近隣にある商店等の店員だけでなく多くの人との関わりが生まれている、あるいは利用者同士の関わりが施設よりも増えていることからプラスの評価となった。B-4 については、施設入所時と変わらずグループホームでも職員等と人間関係を構築していたので評価点差が 0 ポイントという結果になった。

・「家族関係」については、B-2 はプラス 0.5 ポイント、B-5 はプラス 1 ポイントとなり、B-1、B-3、B-4、B-6 は地域移行前後で評価点差が 0 ポイントとなった。B-2 については、地域移行後に家族へ対する接し方に変化が見られたこと、B-5 については実家により近いグループホームでの生活となったことにより面会が増え、利用者の希望である実家に近いグループホームでの生活になったことがプラスの評価となった。それ以外の事例で評価点差が 0 ポイントとなったのは、入所時から家族との関係が良好で地域移行後もその関係性が維持されていた、あるいは家族が既に亡くなっている等の理由から評価点差が 0 ポイントとなった。

・「情緒（心情・感情）の安定」については、B-2、B-4、B-6 がプラス 1 ポイント、B-5 がプラス 2 ポイント、B-1、B-3 が地域移行前後で評価点差 0 ポイントとなった。B-2、B-4、B-5、B-6 については、入所時に比べてパニック状態や興奮状態になる様子が見られなくなったことからプラスの評価となった。B-1、B-3 については入所時から情緒的に不安定な様子が見られず地域移行後も同様に不安定な様子が見られていない、あるいは利用者がパニックになる頻度的なものは変わらないということから評価点差が 0 ポイントとなった。

・「コミュニケーションの緊張状態」については、B-5 がプラス 2 ポイント、B-1 がプラス 1 ポイント、B-2、B-3、B-6 がプラス 0.5 ポイント、B-4 は地域移行前後で評価点差が 0 ポイントとなった。評価がプラスになった事例については、それまで会話が単語によるものだったのが、地域移行後は日常会話が成り立つようになり言葉だけでなく文字で意思を伝えるようになった、あるいは利用者から職員に話しかけてくれる場面も増えたといった理由からプラスの評価となった。評価点差が 0 ポイントとなった B-4 については、この項目において入所時から困難や課題等がなく、地域移行後も同様であることから評価点差が 0 ポイントとなった。

②生活行動群について

・「選択・嗜好」については、B-1、B-2、B-4、B-5、B-6 がプラス 1 ポイント、B-3 がプラス 1.5 ポイントで全事例がプラスの評価となった。入所時に比べて地域移行後は、利用者自ら選択する場面が増えているということからプラスの評価となった。

・「住まい」については、B-1、B-2、B-3 がプラス 2.5 ポイント、B-4、B-5、B-6 はプラス

2ポイントと全事例がプラスの評価となった。地域移行により個室になった点がプラスの評価となった。また、評価結果に若干のばらつきが生じたのは、地域移行前から既に個室であった、あるいは地域移行後のグループホームが風呂、小キッチン付きの個室であること等により、評価にばらつきが生まれた。

・「医療・健康」については、B-5がプラス0.5ポイント、それ以外の事例においては地域移行前後で評価点差が0ポイントとなった。B-5については、地域移行後にかなり減薬されたことがプラスの評価となった。それ以外の事例については、元々、持病等のため定期通院をしており地域移行後もその通院を継続しているので、医療・健康については大きな変化がないことから評価点差が0ポイントとなった。

・「地域資源の活用」については、B-2、B-4がプラス1ポイント、B-5、B-6がプラス0.5ポイント、B-1、B-3が地域移行前後で評価点差0ポイントとなった。B-2、B-4、B-5、B-6については、地域移行後に移動支援や行動支援を利用しての外出等をしていることからプラスの評価となった。B-1、B-3については入所時から自由に外出をしており、地域移行後も継続して外出をしている点から評価点差が0ポイントとなった。

・「生活リズム・生活の安定」については、B-5はプラス2ポイント、B-2はプラス1ポイント、B-3、B-4はプラス1.5ポイント、B-1、B-6は地域移行前後で評価点差が0ポイントとなった。B-2、B-3、B-4、B-5については、地域移行したことにより個人の空間と環境が確保され生活の安定につながったことが確認された。

③社会関係群について

・「余暇」については、B-3はプラス1.5ポイント、B-1、B-2、B-4、B-5はプラス1ポイント、B-6はプラス0.5ポイントと全事例でプラスの評価となった。地域移行後に移動支援や行動支援を利用しての外出の機会が増えた、利用者自ら旅行等を計画して外出できるようになったことからプラスの評価となった。

・「社会との関わり」については、B-3、B-5、B-6はプラス1ポイント、B-1、B-2、B-4は地域移行前後で評価点差が0ポイントとなった。B-3、B-5、B-6については、利用者が望まれば旅行の機会を作ってみたり、地域行事があれば参加したりと、入所時よりも社会との関わりが増えていたことからプラスの評価となった。B-1、B-2、B-4については、行事への参加等が入所時と同様であることから大きな変化はないことで評価点差が0ポイントとなった。

3) リッカートスケールによる評価集計結果

表8 ゾーンBのリッカートスケールによる平均評価集計結果

		評価結果
ゾーンB	人間関係群	2.9ポイント上昇
	生活行動群	4.9ポイント上昇
	社会関係群	1.5ポイント上昇

シングルシステムデザイン法による分析結果を、ポイントによる評価結果で整理した1人当たりの平均は上記のとおりである。

人間関係群については2.9ポイントの上昇となり、中でも「人間関係・人間関係の広がり」が約1ポイントと最も上昇した。生活行動群については4.9ポイントの上昇となり、中でも「住まい」が2.2ポイントと最も上昇した。社会関係群について1.5ポイントの上昇となり、中でも「余暇」が約1ポイントと最も上昇した。ゾーンBにおいて、群毎の変動が最も大きい項目は生活行動群であった。

4) 地域移行前後のリッカートスケールによる評価結果

各事例の地域移行前と地域移行後をシングルシステムデザイン法によって分析したポイントによる評価で整理した結果は、以下の表のとおりである。

表9 ゾーンB調査対象者毎の地域移行前後のリッカートスケールによる評価結果

		B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6
地域移行前	人間関係群	3	2.7	3.5	2.7	2	2.7
	生活行動群	2.6	2.4	2.8	2.4	2.4	3.2
	社会関係群	2.5	2.5	3.5	2.5	2	3.5
地域移行後	人間関係群	3.3	3.5	3.8	3	3.7	3.3
	生活行動群	3.3	3.5	3.9	3.5	3.6	3.7
	社会関係群	3	3	4.5	3	3	4.2

また、地域移行前と地域移行後のゾーン B 全体における平均評価ポイントは以下のとおりである。

表 10 ゾーン B 全体における平均評価ポイント

			評価結果
ゾーン B	地域移行前	人間関係群	2.7 ポイント
		生活行動群	2.6 ポイント
		社会関係群	2.7 ポイント
	地域移行後	人間関係群	3.4 ポイント
		生活行動群	3.5 ポイント
		社会関係群	3.4 ポイント

(3) ゾーン C

C ゾーンの4名に関し、調査を実施した結果の概要について説明する。なおこの区分の対象者は、当法人の中央値17年よりも長く、地域移行に至るまでの取り組みにおいて様々な工夫を凝らしながら支援を行った事例の群である。

1) 地域移行の取り組み概要

① 法人の取り組みについての概要

- ・担当職員が言葉で施設以外での生活を望んでいるという利用者の意思を確認したが、精神的に不安定な様子も見られ、日によって利用者の意思に変化もあった。そのため、カンファレンスや会議の場を設け、長年利用者に関わっている複数の職員が出席し、利用者の情報を共有しながら地域移行の取り組みを進めるために必要な支援体制について確認した。
- ・法人のソーシャルワーカー、施設長等の会議にて、該当利用者のそれまでの生活の様子から地域での暮らしが可能であると考えられ、法人のソーシャルワーカーがチーフとなって地域移行推進に向けた取り組み体制を構築していった。
- ・聴覚に障がいがある C-2 の事例に関しては、利用者自らが地域移行の取り組みについて理解していただけるよう、担当職員、サービス管理責任者、施設長等で会議を重ね、その取り組み体制について検討をしていった。

② 利用者の意思に基づいた支援体制の構築についての概要

- ・自活訓練を実施しながら、都度、利用者の意思を言葉だけでなく生活の様子からも把握するように努めた。また、長年利用者に関わっている担当職員が自活訓練に携わることで、利用者の細かな変化も把握できるような体制を整えた。
- ・聴覚障がいがある C-2 の事例については、担当職員がチーフとなりながら一目でわかるような地域移行の取り組みを検討した。地域生活体験の際には利用者の荷物を体験場所へ全て引っ越し、またその様子を利用者にも見てもらうことにより、施設外の場所に行くイメージを持ってもらえるように工夫をした。実際に地域生活を体験している利用者の様子を観察し、大きな混乱を起こすこともなく安定して生活を送っていることから地域移行を進めることを決定した。

2) リッカートスケールによる評価

シングルシステムデザイン法を用いて分析し、地域移行前後のリッカートスケールによる評価を実施した結果に基づく効果ポイントは以下の表のとおりである。

表 11 ゾーン C のリッカートスケールによる評価結果表

		具体的な内容	結果				
			C-1	C-2	C-3	C-4	
人間関係群	1	人間関係 人間関係の広がり	①友人、仲間関係の広がり ②支え手、支援者の広がり ③地域住民との交流 ・地域の役員 ・近隣住民 ・近隣商店の店員 ④その他	-1	0	0	0
	2	家族関係	①面会の頻度 ②帰省の頻度、期間	0	0	2	0
	3	情緒(心情・感情)の安定	①パニック状態や興奮状態について	-1	1	1	0
	4	コミュニケーションの緊張状態	①ご本人からの意思発信状況について ②ご本人の意思の発信方法について ③職員とご本人のコミュニケーションの状況について	0	0.5	1	0
生活行動群	5	選択・嗜好	①食事…自分の好みのメニュー、飲物 ②入浴…頻度、時間を自分の都合で決められるか ③起床時間、就寝時間…自分の都合で決められるか ④日用品(シャンプー、歯ブラシ等) ⑤衣類購入 ⑥その日の服装 ⑦テレビ番組	0.5	0.5	1	0
	6	住まい	①部屋の間取り ②多床室か、個室か ③装飾品	1	1	2	2
	7	医療・健康	①健康状況 ②医療機関の活用 ③住まいの場での健康管理	0	0	0	0
	8	地域資源の活用	①利用する事業所 ②銀行、郵便局、役所等	0	0.5	0	0
	9	生活リズム・生活の安定	①生活リズムについて ②生活面での課題について	-1	0	0.5	0
社会関係群	10	余暇	①住まいの場での余暇時間の過ごし方 ②休日時間の過ごし方 ③外出、旅行	0	1	1	0
	11	社会との関わり	①市民活動 ・地域行事への参加 ・選挙 ②財産管理 ③事業所等を利用する場合の説明 ④利用料金等の支払に対する説明	0	0	0	0
	12	その他					他調査対象者と比較すると、支援区分も低く、自立度も高かったため、大きな変化がないという結果になった。

①人間関係群について

・「人間関係・人間関係群の広がり」については、C-1 がマイナス 1 ポイント、C-2、C-3、C-4 が地域移行前後で評価点差が 0 ポイントとなった。C-1 については入所時から他利用者への課題行動があり、良好な関係性が築けていなかった。それがグループホームの小集団になったことにより、さらに課題が顕著になったためマイナス 1 ポイントの評価になった。それ以外の事例については、地域移行前後で評価点差は 0 ポイントになっており、地域移行により人間関係において大きな変化はないという結果となった。

・「家族関係」については、C-3 がプラス 2 ポイント、C-1、C-2、C-4 が地域移行前後で評価点差が 0 ポイントとなった。C-3 については地域移行したことにより施設よりも実家との距離がかなり近くなり、家族との面会が増えたことがプラス 2 ポイントの評価となった。C-1、C-2、C-4 については、地域移行前後で家族との関係性が変わらず、また面会や帰省の頻度も変わらないことから地域移行前後で評価点差は 0 ポイントとなった。

・「情緒（心情・感情）の安定」については、C-1 がマイナス 1 ポイント、C-2、C-3 がプラス 1 ポイント、C-4 が地域移行前後で評価点差 0 ポイントとなった。C-1 については、小集団になったことにより、入所時よりも他利用者に対する課題行動をとるような場面がよく見られるようになったことからマイナス 1 ポイントの評価となった。C-2、C-3 については地域移行したことにより、情緒的に安定して過ごされていることからプラス 1 ポイントの評価となった。C-4 については、地域移行前後で情緒的な面に大きな変化は見られず、評価点差が 0 ポイントとなった。

・「コミュニケーションの緊張状態」について、C-2 がプラス 0.5 ポイント、C-3 がプラス 1 ポイント、C-1、C-4 が地域移行前後で評価点差 0 ポイントとなった。C-2、C-3 については、利用者自らが意思を発信する場面が増えていることが評価され、それぞれプラスの評価となった。C-1、C-4 については地域移行前後でコミュニケーションの状態について大きな変化がないことから、評価点差が 0 ポイントという結果となった。

②生活行動群について

・「選択・嗜好」については、C-1、C-2 についてはプラス 0.5 ポイント、C-3 についてはプラス 1 ポイント、C-4 については地域移行前後で評価点差 0 ポイントという結果となった。C-1、C-2、C-3 については、地域移行後は利用者自ら選択する機会が増えていることからプラスの評価となった。C-4 については、地域移行前後で大きな変化が見られなかったことから評価点差が 0 ポイントとなった。

・「住まい」については、C-1、C-2 はプラス 1 ポイント、C-3、C-4 はプラス 2 ポイントの評価となった。個室になったという点が全事例の評価をあげており、また入所時から個室で暮らしていた事例と多床室であった事例で多少の点数の差が生じた。

・「医療・健康」については、全対象者が地域移行前後で評価点差が 0 ポイントとなった。高齢となり医療機関の通院が増えたが、グループホームで健康面の管理をしており大きな

変化は見られないということから、上記の評価結果となった。

・「地域資源の活用」については、C-2 がプラス 0.5 ポイント、C-1、C-3、C-4 は地域移行前後で評価点差が 0 ポイントという評価結果になった。C-2 については、地域移行後は移動支援や行動支援あるいは日中事業所等、利用する事業所、サービスが増えたことからプラスの評価となった。C-1、C-3、C-4 については地域移行前後で大きな変化が見られないことから評価点差が 0 ポイントとなった。

・「生活リズム・生活の安定」については、C-1 がマイナス 1 ポイント、C-3 がプラス 0.5 ポイント、C-2、C-4 が地域移行前後で評価点差 0 ポイントという評価結果になった。C-1 については、生活面での課題について入所時と利用者自らの大きな変化はないものの、小集団の生活になったことにより利用者の課題が目立つようになってしまったことからマイナスの評価となった。

③社会関係群について

・「余暇」については、C-2、C-3 がプラス 1 ポイント、C-1、C-4 が地域移行前後で評価点差 0 ポイントとなった。C-2、C-3 については、地域移行してから 1 人で散歩や外出等自由に行っていることからプラスの評価となった。C-1、C-4 については、入所時も地域移行後も利用者のペースで余暇時間を過ごすことができていることから大きな変化がないということから評価点差が 0 ポイントとなった。

・「社会との関わり」については、全対象者が地域移行前後で評価点差 0 ポイントとなった。地域行事や選挙については、施設入所時も地域移行後も変わらず機会があれば参加しているので評価点差が 0 ポイントとなった。

3) リッカートスケールによる評価集計結果

表 12 ゾーン C のリッカートスケールによる平均評価集計結果

		評価結果
ゾーン C	人間関係群	0.8 ポイント上昇
	生活行動群	2 ポイント上昇
	社会関係群	0.5 ポイント上昇

シングルシステムデザイン法による分析結果を、ポイントによる評価結果で整理した 1 人当たりの平均は上記のとおりである。

人間関係群について 0.8 ポイントの上昇となり、中でも「家族関係」が 0.5 ポイントと最も上昇した。生活行動群については 2 ポイントの上昇となり、中でも「住まい」が 1.5 ポイントと最も上昇した。社会関係群について 0.5 ポイントの上昇となり、中でも「余暇」が約 0.5 ポイントと最も上昇した。ゾーン C において、群毎の変動が最も大きい項目は生活行動群であった。

4) 地域移行前後のリッカートスケールによる評価結果

各事例の地域移行前と地域移行後をシングルシステムデザイン法によって分析したポイントによる評価で整理した結果は、以下の表のとおりである。

表 13 ゾーン C 調査対象者毎の地域移行前後のリッカートスケールによる評価結果

		C-1	C-2	C-3	C-4
地域 移行前	人間関係群	2.7	3	3	3.5
	生活行動群	2.6	2.8	2.6	3.4
	社会関係群	2	2	3	4.5
地域 移行後	人間関係群	2.2	3.3	4	3.5
	生活行動群	2.7	3.2	3.3	3.8
	社会関係群	2	2.5	3.5	4.5

また、地域移行前と地域移行後のゾーン C 全体における平均評価ポイントは以下のとおりである。

表 14 ゾーン C 全体における平均評価ポイント

			評価結果
ゾーン C	地域移行前	人間関係群	3.0 ポイント
		生活行動群	2.8 ポイント
		社会関係群	2.8 ポイント
	地域移行後	人間関係群	3.2 ポイント
		生活行動群	3.2 ポイント
		社会関係群	3.1 ポイント

(4) ゾーンD

D ゾーンは3名に関し、調査を実施した結果の概要について説明する。なおこの区分の対象者は、当法人の中央値17年よりも短く、比較的短期間で地域移行に至るまで様々な工夫を凝らしながら取り組んだ事例の群である。

1) 地域移行の取り組み概要

① 法人の取り組みについての概要

- ・入所施設の担当職員と入所施設のサービス管理責任者等がカンファレンスや支援記録をとおして、日々の利用者の様子について情報を共有した。会議の場を設けて、利用者に向けた生活環境について検討し、入所施設のサービス管理責任者がチーフとなって地域移行を進めることとなった。
- ・利用者との関わりの長い入所施設の担当職員が利用者とグループホームの見学、体験利用を実施した。また、グループホーム職員として利用者に関わりの長い職員をさらに配置することにより、新しい環境でも利用者が安心して生活できるような条件を整えた。

② 利用者の意思に基づいた支援体制の構築についての概要

- ・利用者が慣れ親しんだ職員が地域移行推進の職員として関わることにより、利用者の意思をよりの確に把握できるような体制を整えた。
- ・それまでの利用者の生活の様子から、どのように生活条件を整えるべきなのかを入所施設のサービス管理責任者がチーフとなって検討を実施した。検討した結果については、グループホームのサービス管理責任者とも共有し、グループホームが限りなく利用者にとって安心した生活環境となるように整えた。
- ・新しい環境が苦手だったD-2、D-3については、時間を要しながらではあるが利用者の様子や姿を観察しながら、利用者の意思を確認するようにした。また、その取り組みには利用者が安心して関わることのできる慣れ親しんだ職員が入るようにすることで、利用者の意思をよりの確に把握できるようにした。

2) リッカートスケールによる評価

シングルシステムデザイン法を用いて分析し、地域移行前後のリッカートスケールによる評価を実施した結果に基づく効果ポイントは以下の表のとおりである。

表 15 ゾーン D のリッカートスケールによる評価結果表

		具体的な内容	結果			
			D-1	D-2	D-3	
人間関係群	1	人間関係 人間関係の広がり	①友人、仲間関係の広がり ②支え手、支援者の広がり ③地域住民との交流 ・地域の役員 ・近隣住民 ・近隣商店の店員 ④その他	1	1	1
	2	家族関係	①面会の頻度 ②帰省の頻度、期間	0	0	1
	3	情緒(心情・感情)の安定	①パニック状態や興奮状態について	1.5	1.5	1.5
	4	コミュニケーションの緊張状態	①ご本人からの意思発信状況について ②ご本人の意思の発信方法について ③職員とご本人のコミュニケーションの状況について	1	1.5	1.5
生活行動群	5	選択・嗜好	①食事…自分の好みのメニュー、飲物 ②入浴…頻度、時間を自分の都合で決められるか ③起床時間、就寝時間…自分の都合で決められるか ④日用品(シャンプー、歯ブラシ等) ⑤衣類購入 ⑥その日の服装 ⑦テレビ番組	1	0.5	1.5
	6	住まい	①部屋の間取り ②多床室か、個室か ③装飾品	1	1.5	1.5
	7	医療・健康	①健康状況 ②医療機関の活用 ③住まいの場での健康管理	0	0.5	0.5
	8	地域資源の活用	①利用する事業所 ②銀行、郵便局、役所等	1	0.5	0.5
	9	生活リズム・生活の安定	①生活リズムについて ②生活面での課題について	0.5	1.5	1
社会関係群	10	余暇	①住まいの場での余暇時間の過ごし方 ②休日時間の過ごし方 ③外出、旅行	1	1	1
	11	社会との関わり	①市民活動 ・地域行事への参加 ・選挙 ②財産管理 ③事業所等を利用する場合の説明 ④利用料金等の支払に対する説明	1	0	0
	12	その他				

①人間関係群について

・「人間関係・人間関係群の広がり」については、全事例についてプラス評価となった。地域移行したことにより、職員等とは人間関係の質的な深まりがうまれたことが確認できた。また、職員との関係性に深まりが生まれたことにより、職員に関わらず地域住民との関係性も徐々に広がりが見られていることも確認できた。

・「家族関係」については、D-3 がプラス1ポイント、D-1、D-2 については地域移行前後で評価点差0ポイントとなった。D-3 については、家族からも「今（グループホーム暮らしている現在）が、一番子育てをしている感覚だ」という調査回答を得ることができ、かなり家族関係が良好であることが確認された。D-1、D-2 については、地域移行前後で大きな変化が見られないことから評価点差が0ポイントとなった。

・「情緒（心情・感情）の安定」については、全事例が1.5ポイントのプラス評価となった。地域移行によりパニック状態や興奮状態になることがかなり減少し、安定して生活を送っていることから上記の評価結果となった。

・「コミュニケーションの緊張状態」について、D-1 がプラス1ポイント、D-2、D-3 がプラス1.5ポイントの評価結果となった。地域移行により、利用者自ら意思を発信するようになった、あるいはその発信された利用者の方の意思に対して、職員がその時々で対応することが可能になったことからプラスの評価となった。

②生活行動群について

・「選択・嗜好」については、D-1 がプラス1ポイント、D-2 がプラス0.5ポイント、D-3 がプラス1.5ポイントと全事例においてプラスの評価結果となった。点数にばらつきはあるものの、全ての事例において利用者の自己決定を保障できるようになったことがプラスの評価結果につながった。

・「住まい」については、D-1 がプラス1ポイント、D-2、D-3 がプラス1.5ポイントの評価結果となった。地域移行により、個人の空間が確保されたこと、利用者の望まれていた環境をより実現できたことにより、プラスの評価結果となった。

・「医療・健康」については、D-2、D-3 がプラス0.5ポイント、D-1 が地域移行前後で評価点差が0ポイントとなった。D-2、D-3 については睡眠や食事をとる等ということが、入所時よりも安定していることからプラスの評価結果となった。D-1 については、高齢となり医療機関の通院が増えたが、グループホームで健康面の管理をされており大きな変化は見られないということから、上記の評価結果となった。

・「地域資源の活用」については、D-1 はプラス1ポイント、D-2、D-3 はプラス0.5ポイントという評価結果になった。全対象者がプラスの評価結果となったのは、地域移行後は移動支援や行動援護を利用し外出をされていることや、地域の行事等に参加されていることからプラスの評価結果となった。

・「生活リズム・生活の安定」については、D-1 はプラス0.5ポイント、D-2 はプラス1.5

ポイント、D-3 がプラス 1 ポイントという評価結果になった。地域移行前と地域移行後と比較すると、地域移行後の生活はパニック状態や興奮状態になることがかなり減少し、全体に落ち着きや安定感が生まれていることから、上記の評価結果となった

③社会関係群について

・「余暇」については、全対象者がプラス 1 ポイントとなった。対象者それぞれが外出をしたり近隣のコンビニに買い物へ出かけたり、あるいはグループホームにて好きなことをしながら自由に過ごしている姿が見られていることから、プラスの評価結果となった。

・「社会との関わり」については、D-1 はプラス 1 ポイント、D-2、D-3 は地域移行前後で評価点差が 0 ポイントという評価結果となった。D-1 については、地域移行後、地域の行事に参加される等、社会との関わりに広がりが見られていることからプラスの評価結果となった。D-2、D-3 については、利用者自らが集団や新しい環境が得意ではないので、それらを踏まえたうえで社会との関わりについては支援を行っているということから、地域移行前後で評価点差が 0 ポイントとなった。

3) リッカートスケールによる評価集計結果

表 16 ゾーン D のリッカートスケールによる平均評価集計結果

		評価結果
ゾーン D	人間関係群	4.1 ポイント上昇
	生活行動群	4.3 ポイント上昇
	社会関係群	1.3 ポイント上昇

シングルシステムデザイン法による分析結果を、ポイントによる評価結果で整理した 1 人当たりの平均は上記のとおりである。

人間関係群について 4.1 ポイントの上昇となり、中でも「情緒（心情・感情）の安定」が約 1.5 ポイントと最も上昇した。生活行動群については 4.3 ポイントの上昇となり、中でも「住まい」が 1.3 ポイントと最も上昇した。社会関係群について 1.3 ポイントの上昇となり、中でも「余暇」が 1 ポイントと最も上昇した。ゾーン D において、群毎の変動が最も大きい項目は生活行動群であった。

4) 地域移行前後のリッカートスケールによる評価結果

各事例の地域移行前と地域移行後をシングルシステムデザイン法によって分析したポイントによる評価で整理した結果は、以下の表のとおりである。

表 17 ゾーン D 調査対象者毎の地域移行前後のリッカートスケールによる評価結果

		D-1	D-2	D-3
地域 移行前	人間関係群	3	2.5	2
	生活行動群	2.8	2.4	2.4
	社会関係群	3	2	2
地域 移行後	人間関係群	3.8	3.5	3.2
	生活行動群	3.5	3.3	3.4
	社会関係群	4	2.5	2.5

また、地域移行前と地域移行後のゾーン D 全体における平均評価ポイントは以下のとおりである。

表 18 ゾーン D 全体における平均評価ポイント

			評価結果
ゾーン D	地域移行前	人間関係群	2.5 ポイント
		生活行動群	2.5 ポイント
		社会関係群	2.3 ポイント
	地域移行後	人間関係群	3.5 ポイント
		生活行動群	3.4 ポイント
		社会関係群	3 ポイント